

2025年度 北海道大学大学院 文学院修士課程入学試験（前期）

試験区分	☒ 一般入試 ☐ 外国人留学生特別入試 ☐ 社会人特別入試（後期のみ）
試験科目名	専門試験（ 地域科学 ）
出題の意図	問1：本設問は、地域社会学分野から2問、社会生態学分野から2問、人文地理学分野から3問を出題しており、各分野の基礎概念を用いて専門的な議論を行う能力や、専門的な知識を現実問題に応用する能力を見る。 問2：本設問は、社会生態学、地域社会学、人文地理学などに関する基礎的な専門用語の理解度を確かめ、さらに指定された文字数で専門的な見地から明確に記述する能力を見る。

2025年度
北海道大学大学院文学院修士課程入学試験問題（前期）
（専門試験） 地域科学 全1枚のうち1枚目

この試験では、試験問題 1 枚、解答用紙 4 枚を配付する。

問1は、小問1間につき解答用紙1枚を使用すること。問2は、小問5間で解答用紙2枚を使用すること。なお、選択した小問の番号を解答用紙に記すこと。また、各間では図を用いて説明を行ってもよい。

問1 下記の設問から2つを選択して解答せよ。

1. アメリカ合衆国の都市では、一般住宅・公共団地などに暮らす人々のみならず、数多くのホームレスの人々が生活を営んでいる。アメリカ合衆国の社会的・地域的文脈に照らし、ホームレス問題の根源・構造とその解決方策について論述せよ。
2. 身の回りの自然資源を利用して生計を営んでいる農山漁村を対象に、地域の人びとにとっての自然資源の重要性を多角的に明らかにする調査を行いたい。どのような調査を行うのがよいか、必要に応じて事例を挙げながら（仮想事例でもよい）、論述せよ。
3. 高等学校学習指導要領（平成30年告示）の特徴の一つにICT活用の強化がある。高校で必修化された「地理総合」におけるICT活用の事例を挙げ、その長所と問題点を述べよ。
4. 哺乳類に適用されている生息調査手法について説明せよ。その際、空間スケールと調査対象を念頭において、各手法の違いを述べること。
5. 自然保護や環境保全をめぐることは、ステークホルダー間で「問題」のとらえかたが違い、合意形成が難しいことが少なくない。必要に応じて事例を挙げながら（仮想事例でもよい）、どのように問題のとらえかたが違い、どうすればそれを克服して問題解決を行うことができるか、論述せよ。
6. 移動という視点に注目して、あなたが人と場所の関係や帰属意識を調査・研究する際に重要と考えるポイントについて、複数の論点を提示しつつ説明せよ。
7. あなたがニホンジカ捕獲事業を立案する立場にあると仮定し、予備調査から事後評価も含め捕獲事業の流れを説明せよ。その際、必要に応じて、狩猟や有害駆除との違いについても述べよ。

問2 次の用語から5つを選択し、専門的な見地からそれぞれ200字程度で説明せよ。

- | | |
|-------------------------------|-------------------------|
| 1. 意味世界 | 9. エイジズム (ageism) |
| 2. 知識経済化政策 | 10. 個体群成長率 |
| 3. 脊梁山脈 | 11. NIMBY |
| 4. 不確実性（野生動物管理における） | 12. コモンズ |
| 5. 個体数管理 | 13. トポフォビア (topophobia) |
| 6. ルーラリティ (rurality) | 14. 白人性 (whiteness) |
| 7. ポリティカルエコロジー | 15. 相対密度指標 |
| 8. 社会的受容性 (social acceptance) | 16. 電気柵 |